

## 令和4年度第2回総合教育会議 議事録

1	日 時	令和4年8月25日（木）午後1時30分から午後2時30分まで	
2	方 法	web 会議（Webex） ※市長：庁議室            教育長、教育委員：教育委員会室	
3	出 席 者	<b>【委員】</b>	<b>【事務局等】</b>
		郡山市長            品川 萬里	政策開発部長            佐藤 直浩
		教育長            小野 義明	政策開発部次長            佐久間 守隆
		教育委員職務代理者    阿部 亜巳	教育総務部次長            渡部 洋之
		教育委員            今泉 玲子	学校教育部長            嶋 忠夫
		教育委員            阿部 晃造	学校管理課長            二瓶 元嘉
		教育委員            藤田 浩志	学校教育推進課長            日下 明彦
		教育委員            田中 里香	教育研修センター所長            難波 和生
			総合教育支援センター所長            大竹 学
			保健所理事            桜井 忠弘
4	内 容	議題(1)全国学力・学習状況調査結果について 議題(2)市立学校におけるコロナウイルス感染症対策の現状	

5	議事内容	<div data-bbox="480 237 657 282" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 開 会</div> <div data-bbox="480 331 746 376" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2 市長あいさつ</div> <p>○品川市長  今日は、全国学力・学習状況調査結果と市立学校におけるコロナウイルス感染症対策の現状の2つについて話をさせていただく。  その他、いつもこちらで用意した議題なので、委員から次回以降の議題について検討してほしいことあればご指示をいただきたい。  現在、岸田総理が体調不良でネットで記者会見等をしているが、実は官邸に皆集まって会見・会議をしている。毎日新聞のコラムでは「各省に担当者がいて、総理と話をすればいい。まだネット会議の体制が不十分だ。」とのことであった。その点では、郡山市のほうが進歩していると感じた。</p> <div data-bbox="480 824 1168 869" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3 議題(1)全国学力・学習状況調査結果について</div> <p>(学校教育推進課長から説明)</p> <p>○学校教育推進課長  今後においては、回答状況の分析から以下の3点を重視し授業の改善を図るよう学校訪問や研修等で指導していく。</p> <p>①学習したこと、調査したことの根拠等を比較検討したり、自分と友達の考えの共通点・相違点を比較検討したりする学習活動の場を設定する  ②授業者は児童生徒の発表や会話をコーディネートし、互いの考えや意見を比較検討できるようにする  ③問題の解答だけでなく、解答を求めるための過程や考え方を言葉や文章でアウトプットする活動を設定する。</p> <p>昨年度、学力向上全体会議において、中学校区の小中学校で、共通の課題を認識し授業改善に努めたことで学力調査の結果の改善がみられたことから、今後も各地区での小中連携授業が効果的に展開されるよう支援をする。</p> <p>○小野教育長  今回の全国学力・学習状況調査については、特に中学3年生の数学について、小学6年生のときのデータと比較し、伸びが見られる。小中学校がお互いに連携しながら課題を共有し、指導に当たっている。これからも同様に取り組んでいきたい。  中学校区における小中連携を学力向上、生徒指導、不登校指導等へ2学期も積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>○品川市長</p>
---	------	---

委員から、今後について教育委員会・市長部局に対し、この結果から何をすべきかご提言いただきたい。

○阿部委員

秋田の結果が出ているのであれば、他県の結果もわかるのか。日本を代表する東京の結果に興味があるので聞きたい。

○阿部教育長職務代理者

郡山市や福島県の結果と非常に優秀な成績を収めている秋田県東成瀬村がどのような工夫したかという記事も拝見した。個人的には郡山市の先生は忙しすぎと感じている。説明があった授業体制の工夫については、答えを導くまでの過程を説明できるようにする、ほかの生徒の意見を聞いて自分と比較するなどの工夫は郡山市の先生も実施しているところだと思う。

小学校などの研究発表の授業を見ることがあるが、各先生方において、どうしてそうなるのかという部分を、子どもたちが自分の頭で考えてたどり着くよう授業内容の工夫が見て取れる。ただ、それが日々の授業に活かしていきれていない部分があるかもしれない。その要因の一つとして先生の忙しさが関連していると思う。先生に「教える」という専門性を発揮してもらうために、それに集中できるような環境、先生が担当しなくてもいいようなことをほかに振り分けるような施策も行うことが大事だと思う。

○今泉委員

かなり前だが教育委員の研修で学校を訪問した際、点数差について原因を聞いたことがある。ほとんどの家が大家族で核家族が少なかった。大家族だと家族の愛情を常日頃から受けて、家族に心配かけないようにしたり、アドバイスを受けやすかったりするという説明を受け、大家族の良さを感じたのを思い出した。核家族が悪く、大家族が良いということではないが、そのような気持ちで身近な方との付き合いが必要なのかなと思う。

○田中委員

東成瀬村の資料を読み、読書の習慣、本を読む時間を作ることが大事だと感じた。また個人に対する図書費用にずいぶん差があると感じた。読み聞かせなどの時間を作っている学校はたくさんあると思うが、本を読むということが結果となった部分があるのではないかと感じた。

小学6年生の理科がずいぶん秋田と差がある。秋田のこういった部分が優秀でこれほど伸びているのか気になった。

○藤田委員

秋田の事例等見せてもらったが、通常授業のほかに地域の力を活かすという話があった。この点は郡山市も潜在能力があると思う。各学校で地域の方々の力をお借りした様々な体験を行っているのはいいが、それを+α学習のほうに組み合わせてもいいと思う。

例えば、キャベツは10aに4,000株植えるが、それを算数の授業に応用し、30aなら何千株準備が必要か掛け算の問題に応用したり、何杯のトレイが必要か割り算の問題に応用したりできるのではないか。ほかの大会ではできないようなことを実際に体験した上で、生産活動・経済活動に基づいた問題を出してあげると感情移入しやすいと思う。郡山市は農業もあれば経済都市でもあり、様々な産業があるため、そのような地域の力を利用し、学校の先生だけではなく地域のサポートを得ながら、子どもたちが感情移入できるような教育システムを構築できる力があると思う。

○品川市長

委員の皆様方から市長部局へ注文、アドバイスがあればお聞きしたい。

○小野教育長

郡山市の教育環境についてはGIGAスクール構想をベースに、一人一台タブレットを準備してもらっている。また、児童生徒一人ひとりが個別最適な学び、あるいは友達同士がお互いに学びあう環境を整えてもらっているので、その環境を十分に活用しながら子どもたちの学びを充実させていきたい。

教育委員会としてもコミュニティスクールについて、令和5年度までに全ての学校で学校運営協議会を立ち上げて、地域と学校が一体となった取り組みを進めていきたい。地域との連携についてのサポートを市長部局とともに進めていければと思っている。

○品川市長

学力テストの結果を受けて、点数の比較もさることながら、フィンランドの話をよく思い出す。国別に児童生徒の学力テストの結果が公表されているが、フィンランドが非常にいい。フィンランドはどのような教育をしているのか。これは単に授業の中身がいいというだけではなく、社会全体が児童生徒の教育をどう見ているかという、社会の在り方を映し出す貴重なデータの一つではないかと思う。郡山の結果を見て、子どもたちが将来郡山に住んでよかったと思ってもらえるようにしなくてはと感じた。

フィンランドでは、オペッタヤ=先生というのがスローガンとなっている。保護者は当然として、社会全体で先生を大事にする文化だと聞いた。

日本では先生の過密日程が問題となり、志望者が少ない傾向にある。これは結果として将来を担う子どもたちの総力へ影響する。教師になりたい

と競争率が高まるようにするのが私の仕事であると思う。内的事項・外的事項があるが、少なくとも外的事項については見劣りしないように心がけていきたい。先生方の働く環境、学校の環境等について教育委員からご意見をいただきたい。私自身も授業と感染予防に邪魔にならないよう体育館や図書室を見て回っているが、各委員においても学校を見てもらいご意見いただければありがたい。

学力テストは学ぶ力の一つバロメーターと言ってもいい。結果ではなくどのような学びをしてきたかを知る一つのきっかけになる。どこが弱かったのか、学び方の健康診断と言ってもいい。

以前、東成瀬村に行ったことがあり、本当に静かな村だが、脈々と学習活動が受け継がれていたことに感銘を受けた。今後も学校だけではなく村全体に注目していきたい。

スポーツは優勝したときなど、学校のフェンスに「優勝」と大きく書いてあるように、学力テストも同様にオープンになってほしいと思う。少し悪くてもそれを話せる雰囲気づくりが大事だと思う。成績が良かった学校について、どのようにしたのか保護者同士、生徒同士、先生同士学びあうきっかけになるのではと思う。成績が悪かったところは、良かった隣の先生に伺うとか、良かったらなぜ良かったのか、より良くするためにはどうすればいいのか比較研究するきっかけになると思う。

県の教育委員会の方針もあると思うが、校長同士で情報を共有するのもお互いに学びあうきっかけになると個人的に思っている。学力テストをやって、結果を見ただけで終わらせるのか、それともどのように見直していくかというきっかけとするのか、教育委員会の中でも議論してほしい。

郡山市の18歳人口が+3千人、0歳児が+2千人と千人減っている。残念ながら来年の今頃は、18歳人口は3千人を切る。日本全国に言えることだが、将来に関わることである。これからは少数精鋭ではないが、一人二役、三役こなせるような力をつけてもらえれば日本の将来も心強い。少子化ゆえに社会全体、国全体を維持・発展させていくために、より小中学生の教育に力を入れていく。学力テストの結果も、体重や身長測定と同様一つのデータとして扱い、少子化時代の学校教育の意義を皆様と共有して取り組んでいきたい。

### 3 議題 議題(2)市立学校におけるコロナウイルス感染症対策の現状

○品川市長

今日から2学期の授業が始まったと思うが、18歳あるいは15歳以下の罹患状況等に注目しながら、教育委員会としての考えを説明願いたい。

(学校管理課長から説明)

○小野教育長

本日から第2学期がスタートしている。各学校においてこれまで通り日ごろの感染対策を徹底しながら教育活動をしていきたい。先生方の感染もあることから、先ほど説明のとおり、教育委員会の指導主事の派遣等も視野に入れ、学校と連携し進めたい。

○学校教育部長

本日から第2学期が始まったが、学校内での感染がないよう各学校十分に配慮してスタートしたと思う。引き続き基本的な感染対策を進めていく。学習補償については、タブレットを十分に活用しながら自宅でも学習を進められるよう支援していきたい。

○田中委員

発熱外来をやっているが、7月中旬以降感染者が増えている。学校関係では家庭内感染が多く、1歳未満の赤ちゃんの感染もある。今年は移動制限がなかったこともあり、お盆明けに増えた印象がある。発熱外来も約50名受診するなど、医療機関はひっ迫している。医療機関も職員が感染もしくは濃厚接触者となった場合は出勤できない。当医院は幸い感染者がいなかったためなんとかやれているが、病院によっては発熱外来を閉めざるを得ないところもある。第2学期も始まったので、基本的な感染対策、体調不良ならすぐ休むことを徹底してほしい。

○阿部委員

当社もお盆期間中に初めて5人の感染者がでた。幸いお盆休み明けに1人以外入社できた。

学校の状況については、毎週教育委員会から感染者数の報告を見ると、増えてきている。私も4回目の接種をしたところである。専門外だが、子どもたちもワクチン接種できるようになったのだから、粛々と進めリスクを減らすことが大事だと思う。当社の社員に対しても、接種通知が来たら、速やかに接種するよう指示している。接種したから、絶対大丈夫ということではないが、あとは基本的な感染対策をするしかないと思う。

○今泉委員

今日から学校が始まった。今まで職員が一人感染したが、生徒たちは皆元気で、やはり学校のほうが楽しいとのことである。

○阿部職務代理者

裁判の世界は紙ベースだったが、コロナをきっかけに法律相談も電話やオンラインでの対応が増えた。福島裁判所管内では全てではないがオンラインでの裁判も導入された。できるものはオンラインへと切り替わっているので、いい傾向と思われる。

私の子どものクラスが学級閉鎖になり、どうなるのかと思ったが、タブレットを持ち帰り、先生が普段の授業と同じように配信してくれた。自分の子どものころには考えられないことなので、感慨深く見ていた。

感染対策と学習の機会の両立は難しいと思うが、これを機会に進めていけることが、法律の世界でも学校の世界でもあると思う。

I C Tを利用した教育について、郡山市はコロナ前から力を入れていたが、そこをさらに進めていくことが重要と感じた。

#### ○藤田委員

今年P T A会長を務め痛感するのが、子どもたちがコミュニケーションを取りにくくなっている以上に、親と親のコミュニケーションが取りづらくなっている。コロナ以前だと運動会や授業参観、学級ごとの親の懇親会でコミュニケーションを取った上で先輩の親御さんから様々な情報を伝達できていたが、それが途絶えてしまっている。今年度、昨年度に入学させた家庭が、情報不足と感じているため、学校をハブにして情報交換できたらいいと思う。また、学校と各家庭のコミュニケーションが薄くなっていることもあるので、タブレットを活用するのが学校対子どもだけではなく、学校対保護者もいいのではと思う。

子どもたち同士もコミュニケーションをとれないとストレスが溜まると思うので、授業だけではなく、休み時間にコロナで療養しなくてはならない子どもと学校に来ている子どもたちでコミュニケーションを取れるよう、人と人のつながりが途切れないような仕組みが重要になると思う。

デジタルでできる部分はどんどん進めていくことが重要である。配布資料も以前は休んだ子どもに紙を届けてきていたが、メールでも送付できる時代である。集金についても、引落しになっているところもあるが、集金袋で集めるアナログのところもあるなどまちまちである。郡山市が中心となり、仕組みを全校的に整えてもいいと思う。いずれにしても、コミュニケーションをとりながら改善していければ、コロナ禍が治まったあといレガシーが残るのではないかと思う。

#### ○品川市長

教育委員の皆様の話をご各学校に周知していただきたい。

#### ○小野教育長

委員の皆様にご賛同いただけただけなので、各学校の校長にメールにて周知する。

		<p>○品川市長</p> <p>デジタル化と言われながら、実生活にどのように使われているかわからないものである。</p> <p>ウイルスについては、私も市民の皆様の健康について責任ある立場の一人である。年代別の発生状況を見ると、発生者数が日を追うごとに若い世代が増えている。これは社会活動の上でのことなので、罹患した方に批判の目を向けるのではなく、よく受診したと伝えるべきと思う。保健所からの情報も最初はきめ細かくもらっていたが、今はそこまで手が回らない状況である。政府もそのような考え方から、発表も簡素化されるようである。</p> <p>最近の傾向としては飲酒、接待を伴う飲食店での罹患は少なくなり、家庭など身近なところでの感染が多くなっている。我が家でも黙食している。親しい人にマスクしてとは言いにくい、逆に友情でもある。それぞれの立場で言いにくいこともあるかと思うが感染対策を徹底してほしい。</p> <p>政府の方針が大きく変わり、各県で個別判断ということである。政府の言っていることと県・市は違うという話になるかもしれないが、地域別の発生状況により個別対応になると思うのでご理解いただきたい。</p> <p>今回の会議も事務局に感謝する。DX化が進んでいないとこれほど早く資料作成、分析もできない。コロナ感染症からDX化の重要性を感じた。DX化が早く小中学生に自然と身につくことが望ましい時代だと思う。</p> <p>最後に、委員の方々に市役所に来る時間がないが、顔を合わせて伝えたいこと、聞きたいことがあれば、このようにオンラインでご意見、ご指導等いただければと思う。</p> <p>4 その他 なし</p> <p>5 閉会</p>
6	会議資料	<p>(1)【総合教育会議】1次第</p> <p>(2)【総合教育会議】2資料</p>